

羅臼町立小学校・羅臼町立幼稚園適正配置計画

「子どもたちにとって望ましい教育環境の一層の充実を目指して」

当町においては、児童・生徒の減少に対応する適正な教育環境の維持向上をめざし、平成18年1月に「羅臼町立小・中学校の学校適正配置計画を作成しました。この計画に基づき、平成20年に知円別小中学校、平成22年に植別小中学校、飛仁帯小学校が統合となりました。

また、平成22年11月には羅臼町立小・中学校適正配置計画再検討委員会などに羅臼町立中学校の適正配置について諮問し、平成30年に羅臼中学校、春松中学校を廃校し、「知床未来中学校」を新設いたしました。

その結果、現在小学校2校、中学校1校に至っているところであります。

また、幼稚園につきましては、少子化により一緒に遊ぶ子どもの数が減少し、集団の中で多様な経験をつむ事が困難になるなど、子ども達を取り巻く環境が大きく変化しているため、子ども達一人ひとりそれぞれの発達段階に応じた、生活や学習の基盤を培うなど、家庭や地域では習得できない多様な経験の中から大きく成長していただきたいものと念願し、平成19年に保育園の幼稚園化とともに、羅臼幼稚園と春松幼稚園の2園体制で運営しております。

更なる人口減少による少子化に歯止めがかからない現在、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題となっており、学校設置者である当町においても、主体的な検討を行うことが求められています。

しかしながら地域コミュニティの核としての性格を有することが多い学校の統合の適否の判断は、教育的観点のみならず、地域の様々な事業を総合的に考慮して検討しなければならない大変デリケートかつ困難な課題であり、検討が必ずしも進んでいない当町においては計画的に適正配置について検討を行うことが必要との認識から、5年間ごとの適正配置計画を策定することといたしました。

羅臼町の子ども達には当町の教育目標である「ふるさと羅臼の躍進を創造し、いきいきと逞しく行動する心豊かな町民の育成」の充実を図るために、新たな人口推移を勘案し、必要な学校規模や学級規模を再整理のうえ、今残された町民が一体となり、子どもたちにとって望ましい教育環境の一層の充実を目指して、教育的効果を最大限高めるための適正配置計画が必要です。

今後の当町の教育について、どのような環境が子ども達にとって最も望ましいのかを、町民の皆様とともに考えていきたいと存じますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

1. 羅臼町の教育課題について

(1) 国や北海道の教育行政の動き

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたという時代背景を踏まえ、新しい学習指導要領では主体的に課題を解決するための資質・能力の育成及び健康を保持増進するための健やかな体の育成、人としてよりよく生きるための豊かな人間性の育成を3つの重点として、更に教職員の資質・能力の向上を基盤とした学校づくりの実現、学校の組織力を基盤とした学校づくりの実現、学校種間や家庭・地域との連携・協働を基盤とした学校づくりの実現を3つの視点とした第4の重点として学校の教育目標を実現するための「学校力の向上」を掲げそれぞれ6項目程度の目標を立てて「ふるさとの創生を担う子ども」を育む根室教育の推進として様々な取り組みを進めております。

(2) 羅臼町の教育目標と教育課題

当町としては、「ふるさとの創生を担う子ども」を育む根室教育の推進に沿って、学校教育を進めていくことが必要であり、学習指導要領を基本とし、羅臼町教育目標である「ふるさと羅臼の躍進を創造しいきいきと逞しく行動する 心豊かな町民の育成」に向かい、幼稚園から高校まで一貫した教育やE S Dに取り組むことで育てたい資質・能力、各学校の特色を生かした教育目標を取り入れ教育活動の展開に努める必要があります。

具体的には、特に、子ども達に「ゆとり」の中で自ら学び・考え・行動する「生きる力」を育むために、社会生活のルールなどを身に付けさせ、正義感や倫理観、思いやりの心などの豊かな人間性やふるさとを愛する心の教育を充実させていくことが必要です。

少子化時代に適応した教育環境整備について、各学校では、地域の過疎化と少子化により児童・生徒の減少が急激に進んでおり、このような現状から、常に安定した適正な規模の学校で学習活動がおくられるよう、当町の小学校・幼稚園の適正な規模・配置の在り方について検討することが急務となっています。

(3) 少子化の現状及び学校規模の課題

当町における人口の推移をみると、昭和40年の8,931人をピークに、基幹産業である漁業が最も盛んであった平成2年に7,805人、その後漁獲量の減少とともに人口の減少が続き、平成18年に6,497人、平成20年に6,202人、平成22年に6,024人、平成30年に5,076人、令和2年に4,842人となり、ピーク時の昭和40年と比較すると45.8%の減となっています。

少子化の進行は今後も進展することが明らかであるとともに、人口減少に伴う幼稚園児・小学校児童の減少も同様であり、学校適正化への取り組みは避けて通れないところです。

当町における園児・児童の状況

当町の園児・児童数は平成22年の適正配置計画策定時における147人・333人に対し、令和2年94人・230人で園児53人の減、児童103人の減となっています。今後も減少傾向で推移すると想定することができます。

(4) 適正配置の課題

学校教育は、学級、学年という枠組みの中で、集団を前提として成立する制度であり、この集団が持つ教育力をどう評価し生かしていくかを考えることはとても重要です。

集団の持つ教育力とは、子ども達が良い意味での競争心をもって切磋琢磨したり協力して何かを成し遂げる喜びを感じたり、時には友達と仲違いがあったり、更にそれを乗り越える経験などを通して、それぞれの発達段階に見合った自主性・主体性、更には社会性・協調性を会得させる内在的な力のことです。

当町の幼稚園・小学校適正配置を考えるにあたっては、この集団の持つ教育力を生かすための適正な規模の基準を設定し、見直しを進めることが必要です。

その結果、長い歴史と伝統をもち地域とともに歩んできた学校の統合を検討することは、地域に様々な影響を与える問題であり、効率性だけの安易な統合は避けなければなりません。現状を単に受け入れるだけでなく、新たな学校の創出を目指して、適正配置方策に取り組む決断が必要と考えます。

2. 基本方向と具体的方策について

(1) 羅臼町の幼稚園・小学校の適正化の基本方針

当町の将来を見据えた町立幼稚園・町立小学校適正化の基本方針は次のとおりとします。

- ① 当面は小学校2校、幼稚園2園を維持します。
- ② 町立小学校は複式学級を避けるのが望ましい。
- ③ 複式学級となるときは統廃合の必要性について検討します。
- ④ ③と同時に幼稚園の統廃合の必要性についても検討します。

(2) 推進計画

① 幼稚園

適正配置検討対象園は、羅臼幼稚園、春松幼稚園の2園とします。上記対象園については、当分の間、現状の園配置を維持します。

ただし、当該地域において、統廃合を望む意向がある場合は、統廃合に向けた協議を行います。

② 小学校

適正配置検討対象校は、羅臼小学校、春松小学校の2校とします。上記対象校については、当分の間、現状の学校配置を維持します。

ただし、当該地域において、統廃合を望む意向がある場合は、統廃合に向けた協議を行います。

③ その他

- ・ 園児・児童及び学級数について、毎年推計を行い、基本方針通り複式学級になる状況がみられたときは統廃合に向けた協議を行います。
 - ◇ 統廃合を進めるにあたり、学校規模や学級規模も含めて検討します。
 - ◇ 同じく統廃合を進めるにあたり、スクールバスの導入を必要とします。また、統廃合の必要性が出た場合地域の関係者と十分協議しその意向を尊重しながら進めます。
- ・ 学級編成基準の変更等があった場合は、計画の見直しを行います
- ・ この適正配置計画は、令和2年度から令和6年度（令和7年3月31日）までの計画期間であり、令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日）以降の計画については、令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日）に策定の準備をすることといたします。